

LSN

Life Saving Navi

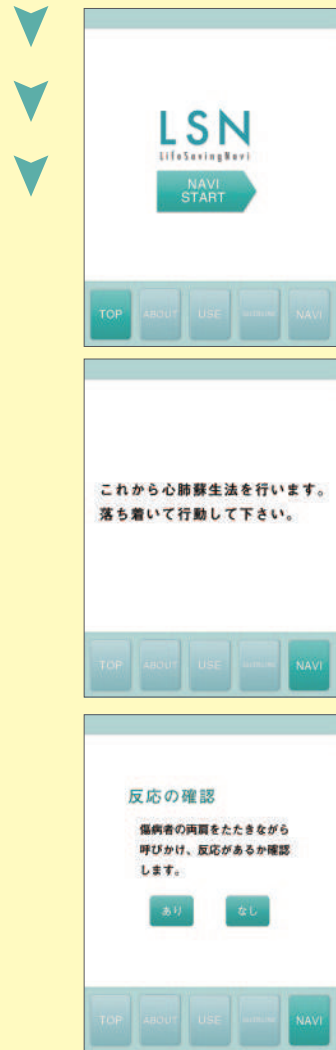
安心して心肺脳蘇生法が行えるアプリ

日本におけるバイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による心肺脳蘇生法実施率が低いのはバイスタンダーの技能不足が問題であると考えられている。技能が不足しているがために蘇生したい気持ちがあっても蘇生法を行うことに抵抗を覚えてしまうことが原因だと考えられる。今回のこのアプリはそういった気持ちを持った人が正しい蘇生法を行っているか確認しながら安心して蘇生法を行えることによる救命率の向上を目的とする。

使用方法

1. NAVIスタート - 状況確認

TOP 画面から NAVI START をタップ後も選択しながら進む。



この後、119 番通報・AED 手配、呼吸の確認に関する指示が出される。

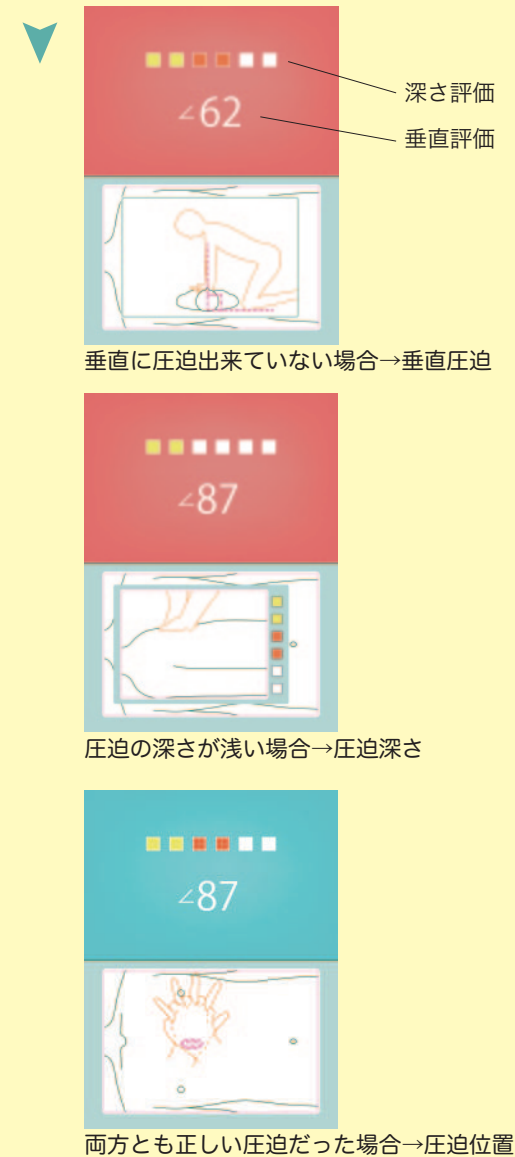
2. 心肺脳蘇生法詳細ナビゲート

ここでは蘇生法を妨げないように自動で画面が移行する。以下「」は音声案内。

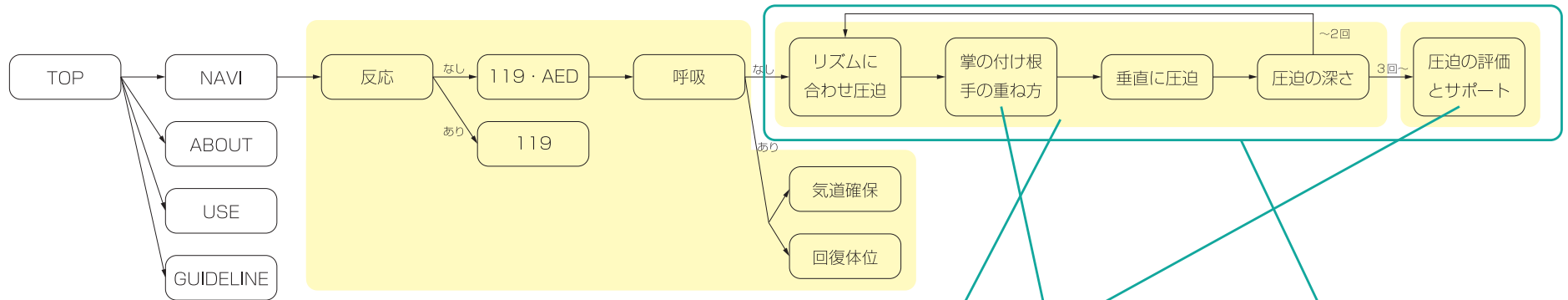


3. 心肺脳蘇生法評価ナビゲート

2と同様に画面は自動で移行。ここでは上半分が心肺脳蘇生法が正しい場合に青、誤った場合に赤の背景が表示され、問題部分のナビゲートを表示する。



アプリ画面の流れ (※人工呼吸→換気、胸骨圧迫→圧迫、と示す)

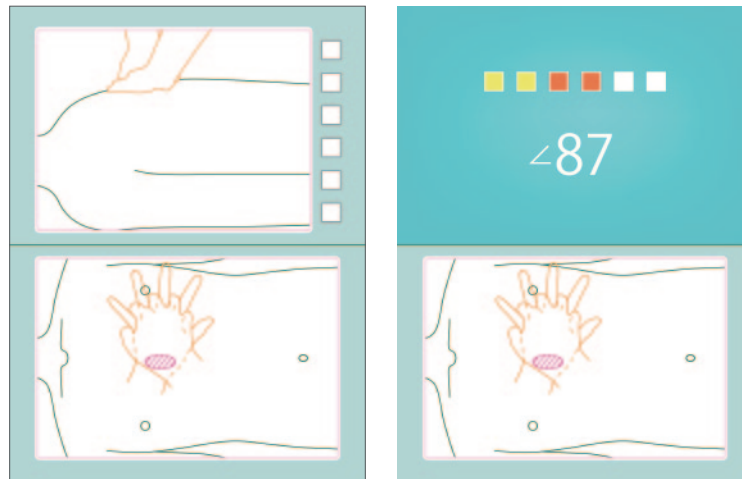


アプリの特徴

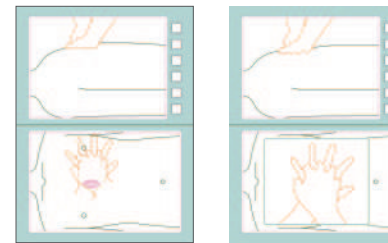
ターゲットユーザー



数年前に講習を受けたため
技能に自身がないものの、
心肺蘇生は行いたいと
思っている



■ 圧迫の深さが 5cm 以上が、垂直に圧迫しているか示す
・・・口頭の指示のみでは把握し難い



■ 手の組み方・位置が分かるよう全ての場面で示す

・・・短時間の表示では確認し難い

■ 圧迫のリズムは適度に間隔をあげながら示す

・・・一定の早いリズムを鳴らし続けることで焦らせた

■ 適切な圧迫の早さの中間の 110 回/分を示す

・・・圧迫の早さは示したテンポの前後に集中する

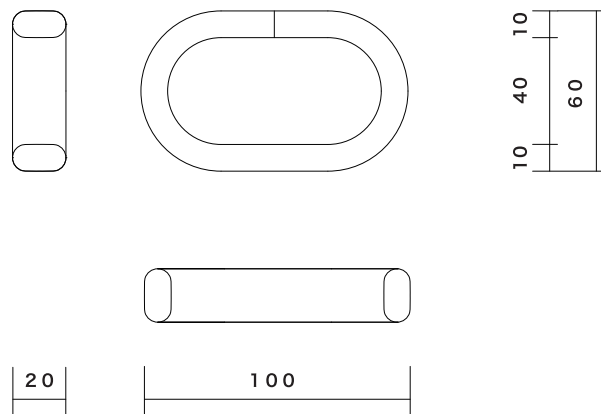
■ 換気の指示をなくし 圧迫のみ行う

・・・単純な換気の指示では受講経験があっても
できないことが多く、換気の方法確認に
時間をさくよりも圧迫を行った方が効果的

■ (改善点)

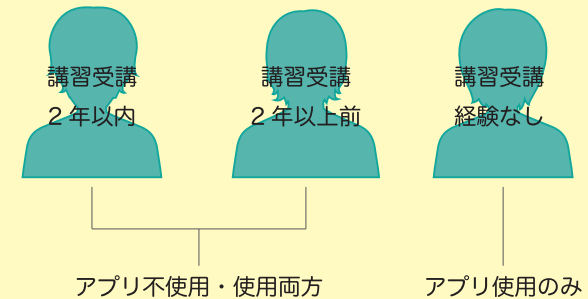
・・・(問題点)

卒業論文から得た結果から抽出



卒業論文の実験内容・実験結果

アプリ不使用・使用条件において、蘇生用的人形に人工呼吸と胸骨圧迫を行わせた。



圧迫の深さ

5cm 以上という指示のみでは感覚的であり十分な指示ではなかった。

圧迫後の胸の戻り

音声指示のみでも不完全な被験者は少なく大して問題ではなかった。

圧迫の位置

全体の結果が良好であったことから圧迫の表示方法は適切であったが表示時間の短さにより把握しきれないという意見もあった。

圧迫の速さ

音声により示された圧迫のリズムは 100 回/分でありその前後にリズムは集中し効果的であったと考えられる。

換気量

ほとんどの被験者は換気量 0ml であった。